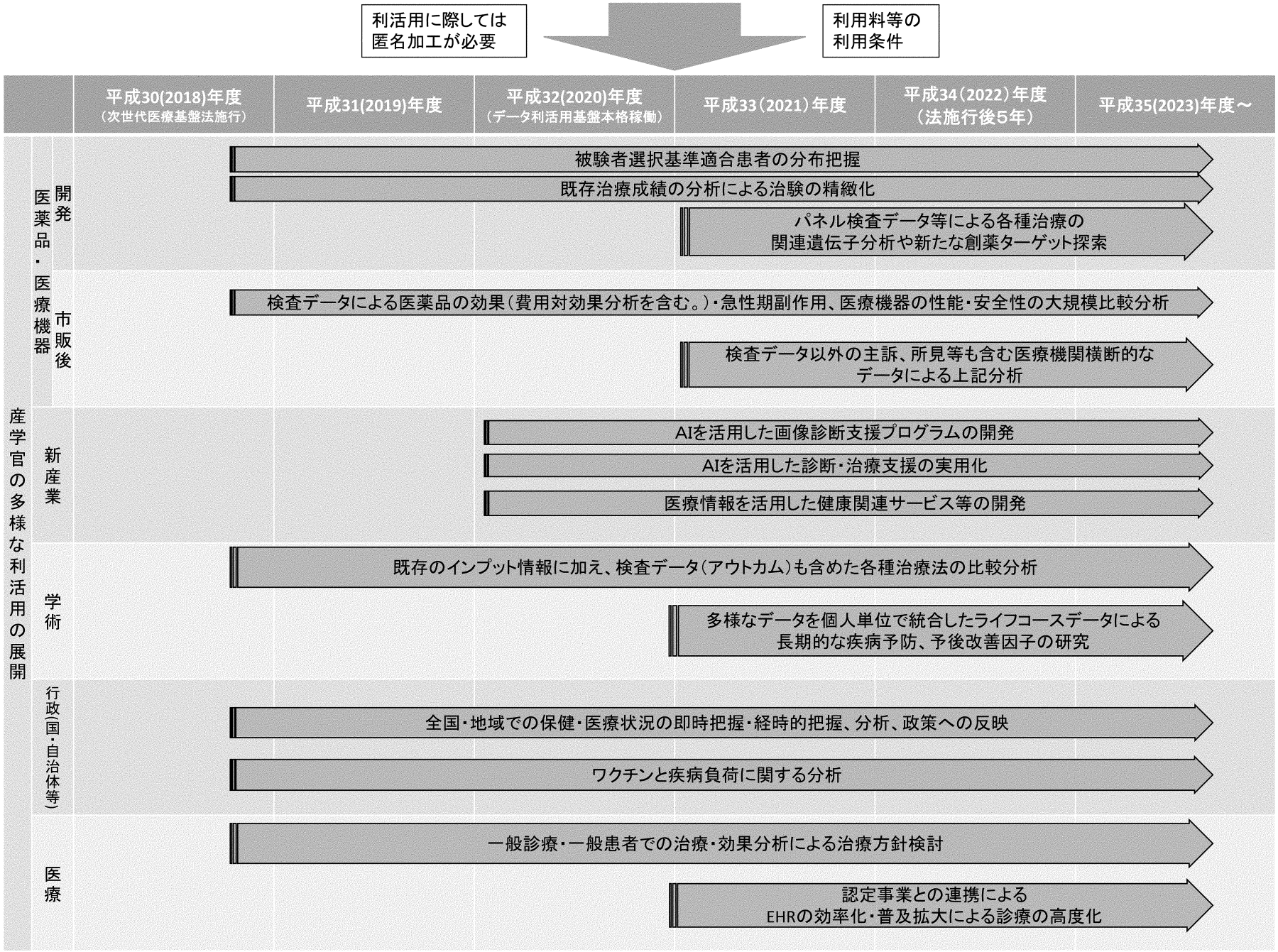

利活用に際しては
匿名加工が必要
利用料等の
利用条件
平成30(2018)年度
（次世代医療基盤法施行）
平成31(2019)年度
平成32(2020)年度
（データ利活用基盤本格稼働）
平成33（2021）年度
平成34（2022）年度
（法施行後5年）
平成35(2023)年度～
産学官の多様な利活用の展開
医薬品・医療機器 開発
被験者選択基準適合患者の分布把握
既存治療成績の分析による治験の精緻化
パネル検査データ等による各種治療の
関連遺伝子分析や新たな創薬ターゲット探索
医薬品・医療機器 市販後
検査データによる医薬品の効果（費用対効果分析を含む。）・急性期副作用、医療機器の性能・安全性の大規模比較分析
検査データ以外の主訴、所見等も含む医療機関横断的な
データによる上記分析
新産業
AIを活用した画像診断支援プログラムの開発
AIを活用した診断・治療支援の実用化
医療情報を活用した健康関連サービス等の開発
学術
既存のインプット情報に加え、検査データ（アウトカム）も含めた各種治療法の比較分析
多様なデータを個人単位で統合したライフコースデータによる
長期的な疾病予防、予後改善因子の研究
行政（国・自治体等）
全国・地域での保健・医療状況の即時把握・経時的把握、分析、政策への反映
ワクチンと疾病負荷に関する分析
医療
一般診療・一般患者での治療・効果分析による治療方針検討
認定事業との連携による
EHRの効率化・普及拡大による診療の高度化